

大阪市立大学工学部 学生員 ○森永 芳弘
 大阪市立大学工学部 正会員 日野 泰雄
 阪神高速道路公団 正会員 徳永 法夫
 長大 地域環境計画部 正会員 是澤 元博

1. はじめに

都市部では、土地の有効利用を図るため、高架道路の比率が高くなっており、都市景観にも大きな影響を及ぼしている。加えて、供用後の構造物の汚れは、景観評価を低下させる大きな要因になっていると思われる。そこで本研究では、都市高速道路の立地する大阪市内の19地区を抽出し、地区の景観や高架道路のイメージあるいは汚れの評価について、沿道居住者や従業者にアンケート調査を実施するとともに、沿道通行者に対してヒアリング調査を実施した。これらの分析から、汚れに対する意識を把握するとともに、その汚れが高架道路や都市の景観に及ぼす影響を探り、今後の汚れ対策検討の一助とすることを目的とした。

2. 意識調査の概要

(1) 調査地域の概要

カバーリングなど、高架道路の景観機能向上のための美装化、いわゆる景観整備を行っても、汚れによってその機能が損なわれるという問題が生じている。そこで本研究では、主として景観整備を行っている区間(14箇所)を対象としたが、景観整備地域と隣接する景観未整備地域を比較用として5箇所選定し、合計19箇所において調査を行った。

(2) 調査方法

居住者・従業者には、都市内高架道路と地域の都市景観に対する評価について調査した。本調査は原則として訪問配布・回収としたが、一部郵便による回収となった。一方、沿道利用者に対しては、高架道路の印象や、特定箇所の汚れについて質問した。また、併せて対象となっている箇所の汚れの写真を撮影し、定量的・定性的特性を調査票に記入することにした。

(3) データ属性

居住者・従業者に対する調査の回答者総数は1158人、回収率は62%、通行者に対する調査の回答者は1098人であった。また、回答者の性別はほぼ半数ずつとなったが、ヒアリング調査の対象は、やや男性が多い

結果となった。居住者・従業者に対するアンケートにおいて、沿道居住者・従業者の比率は、1:9と従業者の方がかなり多くなった。また、年齢は20代が30%と多くなっているが、他はほぼ15%程度と均等に分布している。通行者に対する調査では、会社員が40%と多く、主婦、学生が各々約20%となっている。年齢構成はアンケート調査と同様であった。

3. 高架道路とその汚れの都市景観に対する影響

(1) 都市景観と高架道路の評価

地域の印象については、悪いと答えた人が約半数に達しており(図-1)、その評価要素に高架道路が挙げられている。このことは、高架道路に対する評価とほぼ一致する(図-2)。一方、良い印象を与えるものは、川や公園など、自然が関係していることが分かった(図-3)。これは、高架道路が生活の場としての都市のスケールを越えていること、重交通量による騒音や振動が問題となっていることなどに加えて、構造物の汚れや高架下の暗さといった雰囲気が影響していると考えられる。

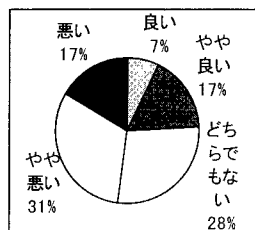


図-1 地域の印象

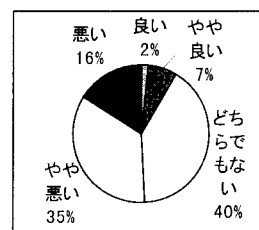


図-2 高架道路の印象

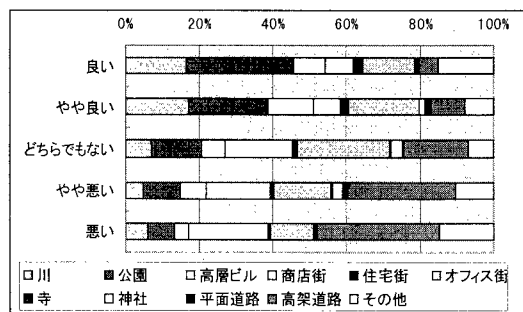


図-3 地域の印象を代表する要素

(2) 高架道路の汚れに対する意識

まず、調査地点から高架道路を見て、付着している汚れが気になるかという質問については、景観対策の有無に関係なく、約 60%の人が気になると答えている。このことは景観対策が行われていても、汚れがその効果を損なう危険性のあることを示唆していると言える。汚れが気になる場所(部位)については、橋脚と答えた人が一番多い(図-4)。景観対策は、遮音壁などに対して行われている場合が多いため、視点場に一番近く、対策の講じられていない橋脚の汚れが指摘されたものと考えられる。同様の理由から、高架裏面を指摘する回答も多い。また、汚れの内容に関しては、「汚れの色」と「汚れの形」を挙げた人が多かった(図-5)。

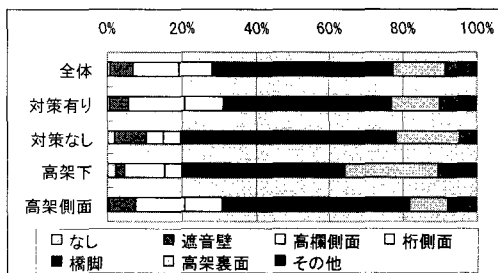


図-4 汚れが気になる部位

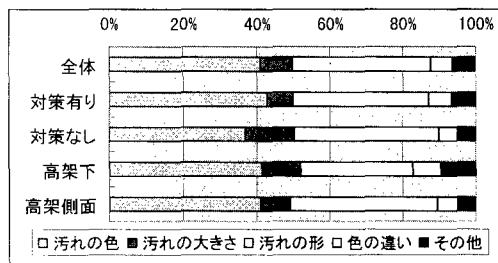


図-5 汚れの内容

さらに、その汚れを、「不快」「やや不快」と感じている人が半数にも達しており、汚れが周辺の人々に及ぼしている影響の大きさがうかがえる(図-6)。

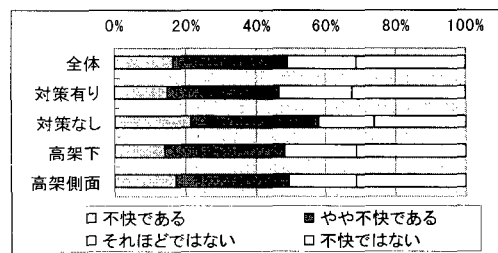


図-6 汚れに対する不快感

(3) 汚れによる高架道路イメージへの影響

汚れを取り除いたら、高架道路の印象は良くなると思うかの問いに対して、「(やや)思う」と回答した人は約 70%に達しており、汚れへの対応が高架道路や都市のイメージの改善に寄与するものと考えられる(図-7)。

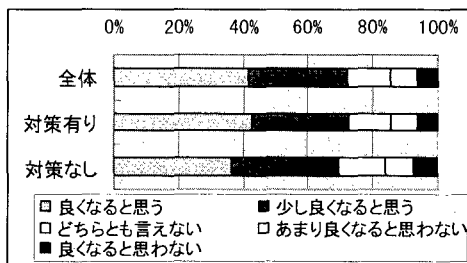


図-7 汚れ対策によるイメージ改善の可能性

そこで、汚れをなくすための方法を質問したところ、清掃や汚れが目立たない色にするといった方法に対する支持が多くなった(図-8)。景観対策が行われている地域では特に清掃を評価する割合が高いことから、小さな汚れが拡大し、景観対策全体に悪影響を及ぼすことが懸念されているとも考えられる。

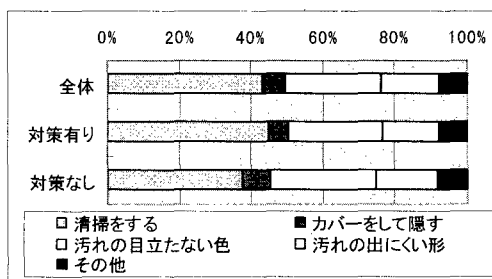


図-8 汚れ対策の評価

4. まとめと今後の課題

都市部において、高架道路は地域の印象を悪くする傾向にあるが、景観対策によってその評価を改善することが可能であることが分かった。また、高架道路の汚れは、高架道路の印象を悪くする原因として指摘されており、汚れ対策が印象改善に寄与する可能性は高い。汚れが特に目立つ部位は、橋脚や高架裏面など、通行する人の視点に近い場所であり、これらの部位を汚れの目立ちにくい色や材質の仕上げとすることや、清掃が効果的と指摘された。

今後も、都市部では高架道路は重要な役割を担うものであるだけに、都市の良好な景観形成を図ることが望まれ、そのためにも汚れ対策が重要な課題となろう。